

【解答例】

I

問一 ウ

問二 一つの拍動で生命に必要な一連の動きを同時に行い、身体の一部を水に溶かしつつもその差異を厳密に維持して生きるクラゲの姿は、渾然一体となった生命の根源を思わせ、身体や分化された各器官をもつ人間存在の確かさを無化するよう感じさせるとのこと。(119字)

問三 魚類の大量捕獲や、大型貨物船の移動によるクラゲの他海域への移動、魚の養殖による海の富栄養化といった人間活動を継続することで、海洋生態系における食物網が、多種多様な生き物を棲息させる大型魚を頂点とする長く豊かな食物連鎖から、クラゲを頂点とする小魚と動物プランクトンによる短いサイクルの食物連鎖へと置き換わるとのこと。(158字)

問四

(ア) Ⅱ鑑賞対象としてのクラゲは、人間の雑多な生命活動とはまったく接点のないものとして外化され、美化されるにとどまっているから。(60字)

(イ) Ⅱ完全な頂点捕食者としてのクラゲが出現して初めて、人間はその実現に積極的に加担した存在としての接点をもつことになるから。(59字)

II

問一

- (a) Ⅱ困窮 (b) Ⅱ操業 (c) Ⅱ奴隷
(d) Ⅱ執着

問二

前者は個人がモノに対して排他的な所有権をもつことを前提に、近年ICTなどの利用を通じて限られた資源を有効活用するとともに、共同体のつながりを再興することを目指す暮らしである一方、後者は古くからおこなわれており、モノの所有権を特定の個人に帰属させず、共同体の間でさまざまな人の使用履歴を帯びながら寿命限界までリユース・リサイクルしながら循環させる暮らしである。(179字)

問三

個人はあらゆるモノを身体労働によって所有し、それに対して排他的権利を有するという私的所有論の考え方。(50字)

問四

明らかに自身に所有権があるモノや財を、心情的・社会道徳的理由から手放すことは、個人が所有物に対して排他的な権利を有するという私的所有における利益に反するものであるが、タンザニア社会においてそれは決して損失ではなく、持ち主の人格がモノに付帯して循環することが、社会関係を維持するだけでなく、経済実践を成り立たせ、他とは区別された自己の確立をも促す役割を果たす。(179字)

問一 ㊦

（ア）Ⅱ今の時代でも、和歌を詠むほどの者などは、ほとんど間違えることのない仮名遣いでさえ、このように間違っているのは、

（イ）Ⅱワ行の「を」とア行の「お」や、ワ行の「わ」とハ行の「は」の区別がついていない、真名本の仮名遣いの誤り。

問二 それを思うと、これも昔の一つの本であったが、後世になって漢字に書き換えたものであるに違いない。

問三 賀茂真淵が、仮名遣いの乱れた真名本を「古本」として評価したり、典拠として引用したりしていること。

問四 仮名の清濁を書き分けているのは近年の国学という学問が始まって以降の人でなければ、そのようにはできないことがある。

問五 国学者が旧本を記したことは明白であるため、「に」という助詞の補いは、平安時代の言葉遣いを知らない当世の人が利口ぶって書いたものだと判断するのが妥当であるから。